

第3セッション：農林業センサスの分析力

コーディネータ：藤栄剛（滋賀大学）・仙田徹志（京都大学）

座長：石田正昭（三重大学）・仙田徹志（京都大学）

小田切徳美（明治大学）「農林業センサスをめぐって—2015年センサスの検討を終えて—」

石田正昭（三重大学）「農地基本台帳、農業センサスを利用した「耕脈」調査の有効性」

伊庭治彦（神戸大学）「集落営農と農林業センサス」

駄田井久（岡山大学）「農業センサスを利用した地域性の分析」

藤栄剛（滋賀大学）「農業経営者の交代と経営構造・行動の変化」

要旨：

農林業センサスは、農林業の構造を把握し、母集団情報を提供するという役割を担う最も重要な統計調査の一つとして、旧統計法では指定統計、現行統計法でも基幹統計調査として認定され、現在、2015年農林業センサスの実施に向けた検討が行われている。農林業センサスは、その豊富な調査内容から、集計結果が公表された後、さまざまな角度から詳細な分析がなされてきているが、本セッションでは、農林業センサスがもつ豊富な情報量をさらに活用する取り組みに着目する。2015年農林業センサスの検討の経緯、農林業センサスをめぐる現状と課題に関する情勢報告の後、農林業センサスと他の農業関係資料を関連させた取り組み、農林業センサスの個別調査結果を活用した分析結果について報告する。